

# 政策研究会 Topics No.1

第1回政策研究会〈平成30年5月15日 葛尾村〉

## 平成30年度の政策研究会がキックオフしました！

調査研究対象である葛尾村にて今年度の政策研究会の活動が始まりました。

平成30年度は、葛尾村を調査研究フィールドに「村内施設の効果的な運営を視野に入れた交流人口の拡大」という課題に取り組んでいきます。

この活動に参加する研究員は、県及び市町村（郡山市、伊達市、埴町、葛尾村）の職員が13名、さらに今年度は新たな試みとして「ソトからの多様な視点」を入れようと協力をお願いしまして、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターと一般社団法人葛尾むらづくり公社に参画していただき、総勢15名となっています。

ご存じのとおり、葛尾村は東日本大震災及び原子力発電所事故により全村避難を余儀なくされ、平成28年6月に一部地域を除いて避難指示解除となり、復興に向けてスタートを切りました。震災以前より小規模な自治体ですが、より厳しい環境の中で村が輝いていくためには、村民の帰還促進とともにソトからヒトを呼び込む取組みを進めていく必要があります。

そこで、政策研究会では、約半年間にわたり葛尾村の現状を調査・把握し、課題やポテンシャルを見出し、ソトからヒトを呼び、村内の交流が活発化するための政策について10月末の提言を目標に活動します。

第1回目となるこの日は、葛尾村の現状を知ることと、交流の一つの切り口として「関係人口」について学ぶことを目的に研究員以外の葛尾村職員も参加してのミニ講演会を開催しました。

最初に篠木弘葛尾村長から直々にお話しいただき、研究会への期待と励ましをいただきました。



次に馬場弘至副村長から「葛尾村の全村避難と復興への道」と題して、東日本大震災及び原発事故による被害状況や全村避難、そして復興へ向けた歩み、避難指示解除後の課題などをお話しいただきました。



月刊「ソトコト」編集長

指出一正氏

さらに基調講演として、月刊「ソトコト」編集長の指出一正氏から「小さくてもできることがある！新しいつながりをつくる関係人口」と題してご講演をいただきました。

ご講演では、指出先生が全国の地方に、それこそ文字通り飛び回って取り組んでいらっしゃる人材育成講座を受講した若者たちをはじめ、ローカルエリアで活躍している若者たちの事例を、彼ら彼女らのはじける笑顔の写真とともにご紹介いただきました。移住まではなくても、観光で来るよりずっと深く地域とのつながりを持っている「関係人口」を切り口に、ヒトとヒトがつながる「関係案内所」の重要性、それには「関係人口を迎え入れるヒト」が必要不可欠な存在であること、若い人たちを惹きつける「関わりしろ」がポイントとなること、など今後の方向性を考えるうえでのたくさんのヒントをいただきました。

葛尾村にとって、移住・定住や観光による交流拡大はまだハードルが高いかもしれません。ならば、そのはざまにある考え方、現地に行けなくても思いを寄せていただく、足を運んでもらうきっかけを築く「関係人口」は交流拡大の一つのアプローチとして今後重要なポイントになりそうです。



今後不定期ではありますが(；^\_^)、活動の様子を紹介してまいりますので、どうぞご期待ください。